



私が青森県黒石町に講演に行ったときでした。そこに山口勝郎さんという人がおられたのです。弟さんは隆康という人でした。非常に熱心な人で「世界は滅びても黒石の速記は滅びない」といった人でした。行つて見ると「中根正雄先生歓迎」と書いた大きな横断幕を道の両側に吊るしてあったのでした。シヨウウインドウにも盛んに速記文字で書いてあり、誠に感激したものでした。この方は会社の社長さんをしておられました、誠に大変な後援をしていただいたものでした。

弟さんの隆康さんはその後、私の速記学校を卒業されていきました。お宅が米屋さんだったので青森市でお米屋さんを開いておられました、青森商業や中学の速記部の指導をもらっていました。指導に行かれる時は洋服を着て行つておられました、家に帰るとお米屋さんの法被を着ておられました。家の入口を入ると正面に速記学校の卒業証書が掲げてあり、お米屋さんとは速記では全く不釣り合いです。しかし速記部を指導していただいていたので、部員の家庭でも米を買うようになり喜んでおられました。その後大阪に来てもらい、大阪支部長として七つも八つも中等学校の昼間、夜間の速記部を指導してもらったのでした、惜しいかな、戦争のため応召、戦死されたのは誠に残念でした。もしご健在であつたら、大阪はどんなに盛んになっていただろうかと思えます。勝郎さんも隆康さんと同じように大変な活動家でご自分でも新分野を開拓活動しておられたのですが、このご兄弟を失ったことは今でも残念に思っています。